

特別の教科 道徳（道徳科）

道徳の教科化に伴い、「**実質化（量的確保）**」と「**質的転換（授業改善）**」が求められている。

実質化（量的確保）…年間35時間（小学校第1学年：34時間）の道徳科の授業の確実な実施を！

計画的・発展的

- ・校区の小・中学校で重点を置く内容項目や、学校・学年が重点とする内容項目を**複数時間扱ったり**、児童生徒の実態に応じて**配列を工夫したり**する。
- ・内容項目を変更する場合は**校長の了解**を得る。

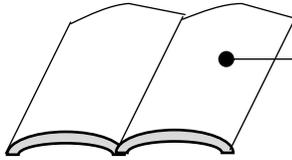
- ・授業実施後、年間指導計画に**指導内容や児童生徒の学びの記録**を残すなどして、年間指導計画の改善を図る。

- ・道徳教育全体計画を基に具体的な指導の時期や内容等をまとめた「**別業**」を作成するとともに、理解が不十分な道徳的価値を**補充・深化・統合**するための要として、道徳科の時間を位置付ける。

年間指導計画

	内容項目	資料名	ねらい	メモ
1				
2				
3	B 親切・思いやり			
4				
5				
6				
7				
8				
9	B 親切・思いやり			
10				
...				
32				
33	B 親切・思いやり			
34				
35				

教科用図書（教科書）



- ・1年間を見通して、計画的・発展的に指導ができるよう「**年間指導計画**」を作成する。

- ・主たる教材として**教科用図書（教科書）**を使用する。
- ・必要に応じて資料の**差し替えは可能**であるが、指導者の恣意による不用意な変更や修正は行われるべきではない。（**著作権等に配慮**する。）資料の差し替えをする場合は**校長の了解**を得る。

補充・深化・統合

別業

内容項目	...	12月	1月	2月	3月
B 親切・思いやり	...	学活 ...	国語科 ...	道徳科 ...	学活 ...

質的転換（授業改善）…価値の押し付けや読み取り中心の道徳から「考え、議論する道徳」へ！

キーワード

「自分との関わり」で捉える

「多面的・多角的」に考える

○道徳的価値を「自分との関わり」で捉える

道徳的価値を自分との関わりで捉え、人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を自分のこととして考えたり、感じたりする。

<手立て>

- ・道徳的価値と「自分の経験」「自分の考え方や感じ方」とを照らし合わせながら、更に考えを深められるよう指導する。

(例)「同じような気持ちになったことはありますか？」

「自分だったらどう考えますか？」

○道徳的価値の理解を基に「多面的・多角的」に考える

道徳的価値の理解とは？

価値理解：「道徳的価値のよさや素晴らしさ」を理解する。
(人間としてよりよく生きる上で大切なこと)

人間理解：「道徳的価値を実現することの難しさ」を理解する。
(人間の弱さなど)

他者理解：「道徳的価値の多様さ」を理解する。
(感じ方、考え方は一つではないこと)

※上記三つを含んだ理解を図る。

- ・**多面的**に考える：自分との関わりで様々な側面から考察する。
- ・**多角的**に考える：他の道徳的価値との関わりで(多方面への広がり視野に入れて)考察する。

<手立て>

- ・多様な感じ方や考え方から接することができるよう、児童生徒同士が対話する活動を充実させる。また、仲間の視点から考えることを促す問いかけを行う。

(例)「Aさんの意見についてどう思いますか？」

「Bさんの立場からも考えてみましょう。」

例 【B 親切、思いやり：資料名「ぐみの木と小鳥」 小学校第2学年】

「自分との関わり」で捉える

- ・けがをしたときに、友達が「大丈夫？」と心配してくれて、うれしかったな。(自分の経験から考える。)
- ・自分だったら、嵐の中で「りすさん」のところに行く勇気はないかもしれないな。(同じ状況に置かれた自分を想起する。)

「多面的」に考える (自分との関わりで考察する)

「小鳥」のように、「りすさん」のことを考えて親切にするのは素敵だ。お互いがうれしい気持ちになる。
(大切なもの)

「小鳥」のように、どんなときも親切にするのは難しいことだ。
(難しいもの)

親切には、「相手のために」や「ありがとう」など、いろんな気持ちが込められているのだ。
(多様なもの)

親切

親切にするためには、自分から相手に声をかける勇気が必要だ。
(勇気)

友達にやさしくすれば、いつまでも仲のよい友達でいられる。
(友情)

相手から親切にしてもらったときは、相手に「ありがとう」の気持ちを伝えることが大切だ。
(感謝)

「多角的」に考える (他の道徳的価値との関わりで考察する)